

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。

農業・農村のすばらしさを次世代に繋ぐ取組を大切にしたい

～日野川流域土地改良区管理課 林 祥雄 氏～

滋賀県蒲生郡竜王町

1. 配水操作、施設の保全整備を担うイケメン技師

今回「水土を守る人々」で紹介するのは、滋賀県南東部に位置する水土里ネット日野川流域（日野川流域土地改良区）で、配水管理や施設の整備・補修、地元小学生への環境学習等を担当する、現在9年目の28歳イケメン技師の林さんである。工業高校で土木を専攻し、現場の仕事を通じて地元の力になりたいとの志で土地改良区に就職した。



水土里ネット日野川流域 林祥雄さん

かんがい期は、中央管理所での配水操作やゲートの調整等を行うとともに、夜間や休日の宿直時には、施設操作の判断・指示を行う責任者である。また、非かんがい期には、施設の点検、直営での補修や機器の取り替え作業に加え、専門業者に委託する補修等工事の測量・図面作成、設計・積算業務など、施設の保全整備に係る一連の業務を任されている。業務量の多さに辛く感じる時期もあったが、現在では様々な業務を経験できることが楽しみと話す。

2. 4つの水源を活用した高度な配水管理

本土地改良区は、琵琶湖からの取水による最大4段階のポンプ圧送、一級河川日野川及び佐久良川の河川取水、鈴鹿山系綿向山を集水域とした蔵王ダム及び地区内113箇所のため池利用、といった多様な水源と複雑



中央管理所でのポンプ運転・調整

な配水系統により、近江八幡市等2市2町の約5,000haという広大な田畑に農業用水を配水している。琵琶湖からのポンプ取水が主水源であるが、近年の電気代の高騰は賦課金に直結する大きな問題となっており、河川水やダム・ため池を最大限効果的に利用するためのきめ細かな取水・配水操作、夜間のポンプ圧送による電気代の

節減など、緊張感を持った管理に取り組んでいる。



空気弁点検状況

また、管内には琵琶湖からのポンプ送水が掛からない地域もあり、降雨に恵まれず河川やため池等の水量が充分でない年には、各地区の水役の方々と相談しながら、自分の目で末端水路の水の流れを確認し、分水工の水量を調整している。これ以上の節水は難しいと思いますが、水役の方々に協力をお願いすることが一番辛く感じる時であるという。

3. 地元小学生への環境学習等の取組

林さんは、土地改良区が毎年主催する管内の小学校を対象とした環境学習会を後輩職員とともに担当している。今年は6つの小学校において、4年生の校内学習と5年生の校外学習を行っている。



校内学習(パワーポイントによる説明)

校内学習では自らが説明者として、児童達が住む地域の田畑まで何処からどのように水が届くのか、そこに至るまでの施設の仕組みや土地改良区の役割、また、田んぼが地域で果たす洪水防止や多様な動植物の棲みかであるなどの多面的機能について、パワーポイントにより説明している。校外学習では、実際に水利施設（ダム、頭首工、揚水機場）を見学したり、田んぼや川で講師を交えた生き物調査や観察会を行っている。

これら環境学習会を開催するため、資金支援企業である大手コンビニとの交渉や生き物観察会の講師探しなど苦労すること多いというが、児童達が自分の説明に楽しく受け答えをする姿や、活動後に興味が湧いた、為になった等の声を聞くと喜びや励みになり、この活動をして良かったと感じるといふ。管内の小学校の全てがこれらの環境学習会の活動に参加してもらえるように働きかけたいと話す。

4. 農業・農村のすばらしさを次世代に繋ぐ

林さんはこの頃、施設の巡回や操作の際、農家の方々による田植えや刈り取り等の農作業や農村風景を見ていると、地域における水の大切さを強く感じるとともに、それを支える土地改良区の仕事の重要性を実感出来るようになってきたという。

また、これからの地域の農業を担っていく児童や地域住民に農業、農村に関心を持ってもらえるような取組を進め、今よりも多くの方々に土地改良区の役割や農業・農村の素晴らしさを伝えられるよう取り組んでいきたいと語ってくれた。

【近畿農政局淀川水系土地改良調査管理事務所】